

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和元年11月26日（火） 16時00分～

場所：教育委員室

発表項目

・「中学生からの提案・発信」「郷土三重を英語で発信！～ワンペーパー・コンテスト～」の発表会・表彰式の開催について（発表）

質疑事項

- ・発表項目について
- ・体罰公表基準の検討状況について
- ・愛知県の県立工業高校の学科改編について
- ・私立学校の生徒の飛び降りについて
- ・英語民間試験の導入見送りについて
- ・定例会の議題について（令和2年度教職員人事異動基本方針について）

発表項目

私からは1件、発表させていただきます。

三重県教育委員会では、中学生の課題解決力や発信力、コミュニケーション力を一層育成する視点から、「中学生からの提案・発信」、「郷土三重を英語で発信！～ワン・ペーパー・コンテスト～」を実施しています。

12月19日に三重県総合文化センターで行う発表会では、多数の応募のなかから、事前審査を経て選出された各部門5つの入賞作品について、生徒自らがプレゼンテーションを行い、その様子や発表内容、書面審査での結果を総合的に評価し、最優秀賞等の各賞を決定します。

「中学生からの提案・発信」は、生徒会や委員会、部活動、その他のグループが、学校生活の活動や地域の課題など、身のまわりの課題について考え、その解決に向けて、現在取り組んでいる事例や効果を上げた実践、これからの取組について提案いただくものです。中学生の皆さんには、各課題に対して、受け身で対処するのではなく、主体的に向き合い、仲間と共に解決に向け、自分の考えや意見を積極的に社会に発信する力を育ててほしいという思いでこの部門を行っております。

「ワン・ペーパー・コンテスト」は、郷土三重の良いところを英語で一枚のペーパーにまとめて発表するものです。こちらは、個人での取組となりますが、伝統文化や偉人、地域のよさについて、資料等で調べるだけではなく、実際に関わりのある場所に出かけ、学んだり感じたりしたことを、生徒一人ひとりの言葉として英語で発信していくものです。中学生の皆さんには、コンテストを通じて私たちが暮らす三重県は、豊かな自然に恵まれ、世界遺産や歴史のある素晴らしいふるさとであること、その良さに改めて気づいてほしいと思っています。また、グローバル化が進展し、コミュニケーションにおいてもボーダレ

ス化が進んでいることから、これからの社会を担っていく中学生の皆さんには、世界に向けて英語で積極的に発信する力を高めてほしいと思います。

12月19日の発表会では、活動の成果や思い感じたことについて中学生が熱く発表しますので、その様子について保護者それから県民の皆さまにも是非ご覧いただきたいと思っています。

発表項目に関する質疑

○「中学生からの提案・発信」「郷土三重を英語で発信！～ワンペーパー・コンテスト～」の発表会・表彰式の開催について（発表）

（質）これは何回目の開催でしょうか。

（答）平成26年からですので、6回目です。

（質）募集期間はいつだったんですか。

（答）6月から…

（答 小中学校教育課）少しお待ちください。

（質）1,016作品は、前年に比べてどれだけ多いとかありますか。

（答）昨年度が904作品ですので、100作品以上増えました。

（質）これは過去最も多いんですかね。

（答）一番初めの年の平成26年が1080作品集まっていますので、それよりは少ないですね。6年間の中では、3番目に多いです。

（質）対象は県内の中学生ということでよろしいですか。

（答）そうですね。国立、私立も含めての中学生です。

（質）応募から入賞の5作品が選ばれたということですね。

（答）はい。

（質）例年と異なる今年始めた取組はあるでしょうか。

（答）プレゼン、講演、賞の表彰については例年と同じです。審査員について、スカラスティック社が審査員に入ってくれています。ハリーポッターをはじめ、マジックスクールバスとか、クリフォードなどの人気シリーズのアメリカの多国籍出版社ですので、英語の本家本元というか、そういうところに入ってもらうのが今回新しい試みです。

（質）スカラスティック社の、どんな人が審査に入るんですか。

（答 小中学校教育課）教育コンサルタントの方です。

（質）これまでではどんなメンバーで審査していましたか。

（答）この方はこれまで入っておられなかったメンバーですね。あとのメンバーは、戦略企画部の広報の担当であるとか、市の教育委員会や、皇學館大学の方とかはこれまでと同じです。

（答）募集期間は分かりましたか。

（答 小中学校教育課）募集期間は6月から9月にかけてです。

（質）資料では6月と書いてありますが、6月から9月にかけての3ヶ月間ということですね。

（答 小中学校教育課）はい。

（質）募集期間も例年どおりですか。

(答) はい。

(質) 「中学生からの提案・発信」部門については、グループでの発表ということで、「ワ
ン・ペーパー・コンテスト」部門については、個人での提案でよろしいですか。

(答) そうです。

(質) この個人の発表で、英語でというところを強調されているわけですがけれども、自分
の思いであったり主張を、英語ではなくて日本語で発信したいという生徒も当然いると思
います。中学校の英語というと、それ以前から学習している人かどうかで、会話力であつ
たりとか、英語力の差もある場合もあるので、こういったところ何か議論になったりとか、
やり方を工夫したりとかはありますか。

(答) グローバル化という中で、そこから始まっている事業ですので。自分の地域のこと
を、自分の身の前にあるよさを、自分の言葉で世界に発信する手段というのはやっぱり英
語だと思うんですね。どうしても。だから、英語で発信する力を中学生のときから身に付
けていこうということで、6年という長い期間ですけど今も続けているというのが実情で
す。

(質) 当然これは応募も英語ベースでの提案だったということですよ。

(答) もちろんです。英語のペーパーをこちらに郵送してもらいます。

(質) それぞれの作品を、壇上で発表してもらって、この(1)と(2)でそれぞれ最優秀
賞、優秀賞、奨励賞を選定することですね。

(答) はい。

(質) この入賞作品というのはどういう経緯で、それぞれ5点ずつ決まったんでしょうか。

(答 小中学校教育課) 審査員に書面で審査していただいています。

(質) これどういう人が審査に関わっているんですか。

(答 小中学校教育課) 三重テレビや大学、県庁や市教委の方です。

(質) どういう観点で入選作品を選んでいきますか。

(答 小中学校教育課) 主体性という観点で、身の回りの課題について状況が整理されて
おり、提案内容の実現に向けて工夫をしているかという観点。それから、「中学生からの
提案・発信」部門については、仲間とともに課題の解決に取り組んでいるか。その他、発
信力の観点で、具体的でわかりやすい内容であるか、着眼点が斬新なものかどうか、多角
的な考え方で表しているかななどを総合的に判断いただいた結果です。

その他の項目に関する質疑

○体罰公表基準の検討状況について

(質) 毎回聞いていますが、職員の処分に対する公表基準、体罰の公表のあり方につい
て、検討状況をお聞かせください。

(答) 前回の定例会見でもお話をさせていただいたとおり進めています。事務的なこと
ですけど、あとはこの文言で出すかどうかというところまで来ております。本当は今日間に
合い、私の方から発表させていただくと良かったのですが、最後の文言調整というところ
まできておりますので、当初からも申し上げている遅くとも年内にはという、その方向性
は変わっておりません。

(質) もう文言の調整という段階なんですね。

(答) はい。どういう内容をどこまでというのはあるんですけど。それを公表する目的とか趣旨を、きちんと固めなければいけませんので、その文言調整というか、最後の調整までできています。

(質) そうすると、つまり公表基準について趣旨・目的の調整ということですから、ある程度固まったのかなと。

(答) 書き方ですね。

(質) 本筋のこういったところを公表するのか、範囲についてはある程度固まったかなという認識を受けたんですけど。

(答) 大体固まったのは事実です。

(質) どれぐらいの公表範囲にされるとか。

(答) それはまだ、言えません。

(質) それはいつ公表する予定ですか。

(答) 年内までに。

(質) 定例記者会見で公表するのですか。

(答) それも含めて、実は事務的に私が考えているところですけど、早い方がいいに決まっているので。定例会見の日程は決まっているため、それより前にも調整ができた場合、速やかに出した方がいいのか、或いは私が定例会見で発表した方がいいのか、そこも調整の一つです。

(質) その基準をいつのタイミングから適用する予定ですか。

(答) それも、最後の調整の内容の一つです。

(質) 対象の範囲というのも決まっているんですか。どういう職員に適用するのか、例えば教職員なのかとか、教育委員会の職員も含まれるのか。例えば、前に不祥事がありましたけど、用務員さんも含まれるのかとか。

(答) そういう範囲についても、もちろん、こういうことを公表しますという中には含まれていなければならない内容なので。まだ今の段階では言えませんが、そういうこと含めて考えています。

(質) 今私が申し上げた職員は含まれますか。

(答) それはまだ言えません。

(質) 聞いていれば聞いてるだけ、本当に決まっているのかなと思うんですが。

(答) そういうふうに捉えられても、今の段階では。

(質) 何をもって最終決定としたいということですか。

(答) 報道の皆さんも含めて県民の皆さんに、こういうことで公表しますということが、きちんと確定できるところにきたら、公表します。私が最終的に決定したらです。

(質) 教育委員会自らが最終決定をして公表するというのも一つの方法かもしれませんが、例えば中間案でもいいし、たたき台のようなものを作って、このような方向で検討しているという、ある程度の例えばビジョンを示してそれに対する、リアクションを把握した上で、最後まとめていくという方法もあると思うんです。パブリックコメントにかけるのかどうかは別として。庁内だけで、教育委員会内だけで決めることなんです。

(答) 最初から申し上げていますように、特に第三者委員会を開くとかそういうことではなくて、何度も繰り返しのようになりますが、法曹界の方とか、いろいろご意見を聞いたり、アドバイスをもらったりしてますし、各県や政令市にも全部聞いています。それは、そこに合わせてということではなくて、各県、それぞれの市においてもこういった事象がたくさんあるはずというか、あったらという推測の下にですけど、そのときにどう考えたかという考え方については、やっぱりきちんと三重県の教育委員会事務局として整理をした上で、公表基準というの定めなければいけないと思ってるので。足並みをそろえるという意味ではなくて、そのことについても、法曹界とか、各県の状況もお聞きし、教えてもらいながら決めています。

(質) 法曹界であったりとか、各県の状況というよりは、これを出した時に世論であったり県民が、どういうふうにそこを理解するかということがある意味一番大きいのかと思いますけれども。そこについては、どうやってこれから反映させていく仕組みにしています。

(答) それも含めて、法曹界とか、各県は私たちと同じような立場に立って、それぞれの判断をされておられるでしょうから、県民の皆さんのリアクションとか、社会的な影響のリアクションというのを含めて、法曹界とか、各県とか政令市に意見を聞いているというふうに、理解いただければと思います。

○愛知県の県立工業高校の学科改編について

○私立学校の生徒の飛び降りについて

(質) 2点あります。まず、愛知県の工業高校ですべて工科高校に名称を変更されるということですが、三重県は具体的な話が出てきているとか、お考えがあるとかどうですか。

(質) 二つ目として、ちょっと前にですね、鈴鹿中学校で飛び降りがありましたことについて、私立学校の話ですが、県としてリサーチされて新しいことを把握されたりしているのか、また、何かそれに関して、通知とか通達とかをお出しされているのか。

(答) まずは、愛知県のことについて。名称の変更についてのことだと思うんですが、それについては、愛知県の発表された資料提供と、それから報道から断片的に情報を得ています。三重県においては、これに追随するようとか、或いはこれと合わせてとか、次期的にというようなことで何か考えてるか、何かアクションを起こすということはありません。

(答) 二つ目について、鈴鹿高校の件だと思いますが、決して、私立のことだからということではなくて、命を大切にする教育、自分のことも大切に、人のことも大切にすることとは非常に大切なことなので、それこそ3、4年前からいろんな事案が起こったり、他の都道府県においても、子供がみずからの命を絶つということがございましたので、それについてはずっと「命を大切にする教育」という中で、自他ともにということで続けておりますので、このことが起きたから新たに何かアクションを起こすということはありません。以上2点です。

○英語民間試験の導入見送りについて

(質) 国の動きの関係ですけれども、英語の民間試験の導入について、国としては2020年度からやっていこうというお話があり、それが延期になって、2024年度くらいに先延ばしになったと思うんですけど。そのことについて、教育長としてどのように受け止めていますか。

(答) やっぱり受験する子どもたちが戸惑うことがないように、情報というのは早く知らせて欲しいし、調整をした上で、県の方にも連絡いただきたいなというふうに思っています。質問にはないんですけど、そういうことも含めて、前回の国家予算要望のときに、大学入学共通テストの円滑な実施ということで、教育委員会独自で要望書も文科大臣に持ってっておりますので、そういうことを参考にいただければなというふうに思っております。とにかく、子どもたちが戸惑うことがないようにということだけは、考えて欲しいというふうに思っています。

○定例会の議題について（令和2年度教職員人事異動基本方針について）

(質) 今日の定例会の資料の中で、議案第54号教職員人事異動方針の、2ページ目の新旧対照表のところですが、平成31年度の基本方針の2段落目のところに書いてある「各学校においては、学力と社会参画力の育成～」というくだりが令和2年度の方でなくなったというのは、どういう意図があるのかをお聞きしたいんですけど。

(答 教職員課) 平成31年度基本方針で、「各学校においては、学力と社会参画力の育成、豊かな心の育成」とかあるんですけども、その文言が、令和2年度基本方針の「三重県教育ビジョン（仮称）の後ろの二重括弧（『』）のところに入っておりますので、重複を避けるために、こちらということにしました。

(答) ビジョンで新たにこういうことを大きく打ち出し掲げることにしたので、前は下に記載したところを、冒頭部分に含みの形になっています。

(以上) 16時23分 終了